2019年度第2回 鎌倉淡青会公開セミナー

欧州復興開発銀行（EBRD)の現場を体験して

2019年8月27日

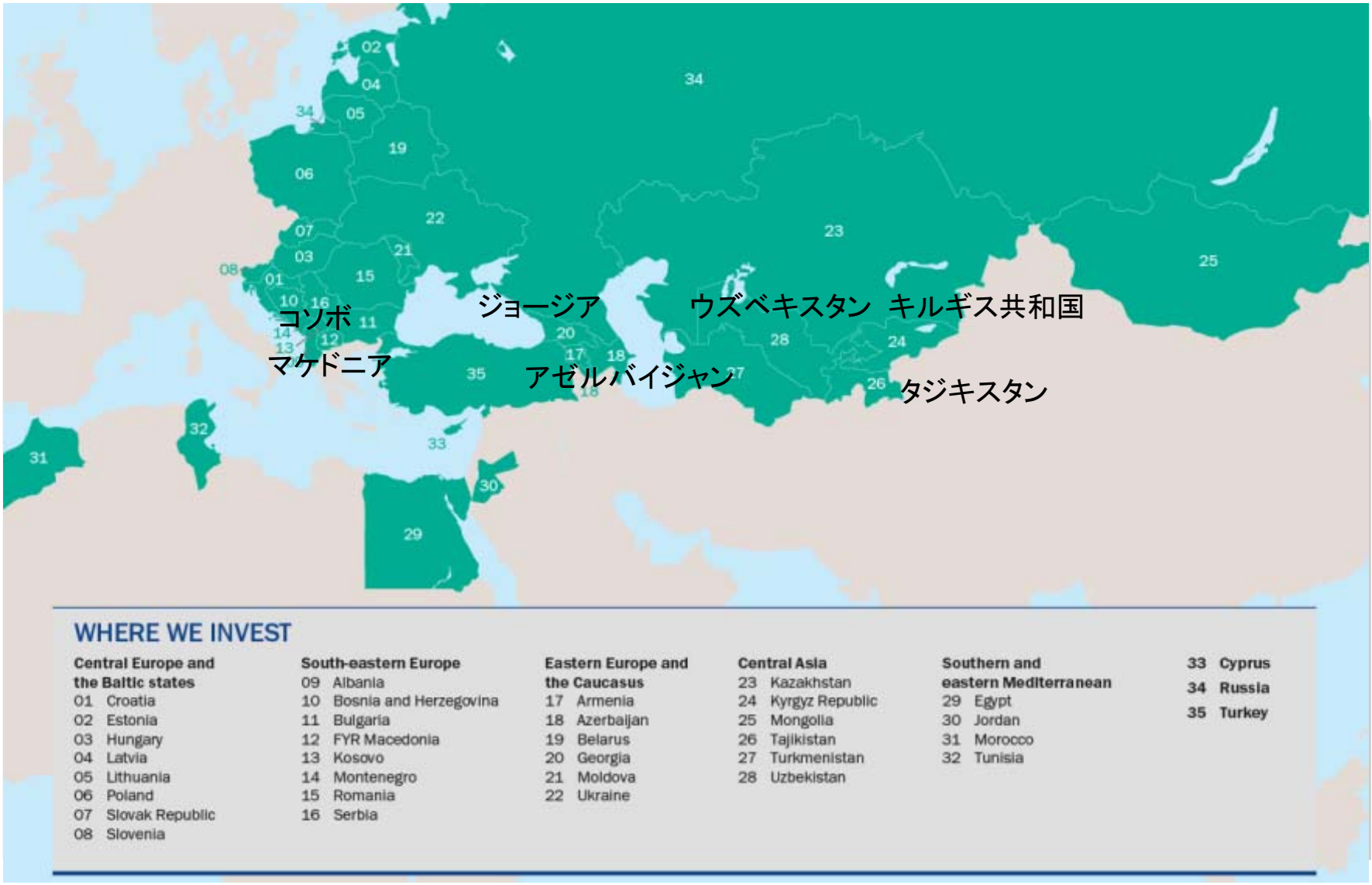
産業技術大学院大学 経営倫理研究所(ERISE) ユーラシア産業技術研究院(EIIT) 所長
国際開発研究者協会（SRID） キャリア開発事業担当幹事

中沢賢治

仕事の歩み

1979年　東京電力（株）入社
1988年　ペンシルベニア大学行政学修士課程修了
1991年　国際連合工業開発機関（UNIDO）ウィーン本部環境調整課
1992年　国際連合環境開発会議（UNCED、アースサミット)、UNIDOミッションメンバー
1993年　欧州復興開発銀行（EBRD）入行。電力事業チーム・バンカー
1999年　EBRDタシケント（ウズベキスタン）事務所長
2004年　EBRDスコピエ（マケドニア）事務所長（コソボ事務所長兼務）
2007年　EBRDビシュケク（キルギス共和国）事務所長
2010年　キルギス危機国際機関合同アセスメント事務局メンバー
2011年　EBRD本部銀行局中小企業支援チーム シニア・マネージャー
2015年　EBRD退職
2016年から現在
　産業技術大学院大学経営倫理研究所(ERISE) EIIT所長
　国際開発研究者協会(SRID) キャリア開発事業担当幹事

EBRDの活動対象37か国 (最新はキプロス、ウェストバンク＆ガザ)



キルギス共和国

(1998年のプロジェクトリーダー、2007-2011年に事務所長)

- 人口　610万人
- 地理
  - 国土の9割は標高1500メートルを越す山岳地帯
  - 幻の湖イシク･クル (琵琶湖の9倍、標高1606m)
  - 天山山脈の向こうは中国の新疆ウイグル自治区
- 産業
  - 農林業がGDPに占める比率1/4
  - 小規模農家が労働人口に占める比率1/2
  - 農地は国土の7%、森林は4%
- 歴史と文化
  - 玄奘三蔵が旅した国 (大唐西域記　629 - 645年の旅)
  - 751年、タラスの戦い (唐 VS イスラム帝国)
    - 中央アジアのイスラム化
  - 井上靖の西域小説(「聖者」、「崑崙の玉」所収)の舞台
  - 1991年の独立 アカエフ政権発足
  - 2005年の革命 バキエフ政権への移行
  - 2010年の政変 民主主義体制への移行

ウズベキスタン

(1999－2004年に事務所長として駐在)

- 人口　3240万人
- 地理　(44万平方km、日本の1.2倍の国土)
  - 二重内陸国
  - 東は海抜1千mのフェルガナ盆地
  - 3千m超えの山並みがキルギス国境
  - シルダリヤ川が天山山脈からアラル海へ
  - アムダリヤ川がパミール高原からアラル海へ
- 産業
  - 金の生産量世界第4位(年間80トン)
  - 綿花の生産量世界第7位
  - 豊富な石油、天然ガス、鉱物資源
- 歴史と文化
  - アレキサンダー大王が遠征した国
    (東方遠征 BC334年-BC323年)
  - 英雄アムール・チムール(1370-1507年)の帝国
  - 世界遺産サマルカンド、ブハラ、ヒバ
  - 1991年の独立
  - 独立以来四半世紀に及んだカリモフ政権
  - 2016年12月ミルズィヤエフ大統領就任(2003年より首相)

タジキスタン

(1999－2004年に北部地域を事務所長として担当)

- 人口　930万人
- 地理
  - 国土の90%がパミール高原の山々
  - 首都ドゥシャンベのある南部
  - フェルガナ盆地側の北部
- 産業
  - 豊かな水力発電に依存したアルミ生産
    (原料のボーキサイトを輸入、国営Talco社が精錬)
  - 綿花生産 (フェルガナ盆地)
  - 国外出稼ぎ労働者の送金額はGDPの1/3 (主にロシアから)
- 歴史と文化
  - ファルシ(ペルシア語)を話す人々の国
  - 北部の主要都市フジャントはタシケントからの陸路が近い
  - 井上靖の西域小説(「古代ペンジケント」、「崑崙の玉」所収)
  - 1991年の独立　(1992－1997年内戦)
  - 1998年国連タジキスタン監視団の秋野豊氏殉職
  - 2009年公用語としてのロシア語廃止
  - 独立以来のラフモン政権(2007年改名)

マケドニア （2004－2007年にEBRD事務所長として駐在）

- 人口 200万人
- 地理
  - 旧ユーゴ連邦の南端
  - 北はギリシャ、西はブルガリア
  - 東はアルバニア、南はコソボ、セルビア
  - 世界遺産オフリッド湖
- 産業
  - 旧ユーゴを代表するワイン生産国
- 歴史と文化
  - アレキサンダー大王（BC356 - BC323)
  - 14世紀末からオスマントルコ支配
  - 1912-1913年バルカン戦争
  - 旧ユーゴ連邦（1943－1992年）
  - 1991年独立
  - ギリシャとの国名論争（FYRMって何？)
  - 民族共存のモデル国（オフリッド合意）
  - マザーテレサの生まれた国
    （スコピエ生まれのアルバニア人）
  - 2005年にEU加盟候補国
  - 2018年6月「北マケドニア」でギリシャと合意

国際連合システムと開発金融機関グループにおける UNIDOとEBRDの位置付け

第二次世界大戦後に設立された主な国際金融機関

EBRDの設立目的

EBRDの加盟国、資本金、年間投融資額

EBRDの活動対象37か国
(最新はキプロス、ウェストバンク＆ガザ)

国際連合システムの一覧図 (出所:外務省資料)

（世銀グループ、IMFは国連システムの専門機関、主な地域開銀は安全、危機対応などで連携）

第二次世界大戦後に設立された主な国際金融機関

1944年: ブレトンウッズ会議 (UN Monetary and Financial Conference with delegates from 44 allied nations at Bretton Woods, New Hampshire)

- 国際通貨基金（IMF） 1945年
- 世銀グループ
  （IBRD 1945年、IFC 1956年、IDA 1960年、MIGA 1988年）

- 米州開発銀行（IDB） 1959年
- アフリカ開発銀行（AfDB） 1964年
- アジア開発銀行（ADB） 1966年

1989年: ベルリンの壁崩壊
1991年12月: 旧ソ連の消滅

- 欧州復興開発銀行（EBRD） 1991年

  ✓ 他にも多くの多国籍金融機関（AIIB, Eurasian DB, Islamic DB, etc.）が存在。

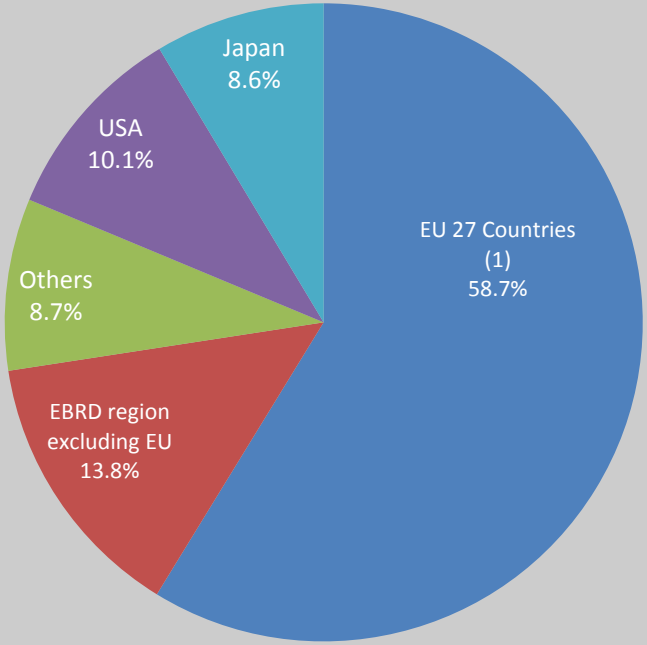
冷戦終結後にEBRDが設立された目的

- 市場経済への移行を支援
- 環境に配慮した持続可能な開発
- 外資の誘致
- 民間セクターの支援と地方自治体サービス業務の改革

EBRDの加盟国、資本金、年間投融資額

- 1991年設立
- 中欧、中央アジア、コーカサス、バルカン、地中海地域の37か国で活動
- 67の株主（65加盟国＋EU＋EIB)
- 資本金 €30 billion
- 年間投融資額

  395件、€9.5 billion (2018年）
- 民間部門比率　73%



(1) Includes European Community and European Investment Bank (EIB) each at 3%. Among other EU countries: France, Germany, Italy, and the UK each holds 8.6%

岐路に立つ世界とEBRDの関わり

- EBRD初代総裁ジャック・アタリ氏。
- 経済学者、思想家、作家。
- 仏ミッテラン大統領の側近。1981年から91年まで大統領補佐官。

（写真は2019年1月6日放送のTBSテレビ「サンデーモーニング」より）

冷戦終結後にEUが経験した変動・危機

	主な出来事	主な帰結
冷戦終結 (1989-91)	ベルリンの壁崩壊(1989） 旧ソ連消滅(1991）	EU創立 (1993) 欧州通貨統合への合意
欧州憲法条約批准否決 (2005年）	フランスとオランダで国民投票	欧州統合の機運に歯止め
ロシア・ジョージア戦争 (2008)	南オセチアをめぐる対立	冷戦終結後の国境線変更(旧ユーゴ諸国を除くと初）
ユーロ危機 (2009~)	2008年世界金融危機 2010年ギリシャ危機	欧州各国で緊縮財政の強化
ウクライナ危機 (2013~)	2014年ロシアのクリミア併合	対ロシア制裁 ロシアのシリア危機介入
移民・難民危機 (2015~)	2015年6月マケドニア入管法改正 2015年9月溺死写真の世界配信	シェンゲン協定による人の自由移動について不安感
テロ多発危機 (2015~)	2015年11月パリ 2016年3月ブリュッセル	ナショナリズムの台頭

EU加盟の28か国は何処へ向かうのか？

- 60年を超えるEUの歴史
  - 1952年　欧州石炭鉄鋼共同体を形成　（ベルギー、西ドイツ、フランス、イタリア、オランダ、ルクセンブルグの6か国）。
  - 1973年　第１次EU拡大（英国、デンマーク、アイルランド加盟）。
- 冷戦終結後の動き
  - 1993年　　マーストリヒト条約（欧州連合条約）の発効によりEU設立。
  - 1995年　　中立を維持してきたオーストリア、スウェーデン、フィンランドが加盟。
  - 1999年　　欧州通貨ユーロの創設。
  - 2004年　　第5次拡大により旧ソ連・東欧諸国が初めてEU加盟
    （チェコ、スロバキア、ハンガリー、ポーランド、スロベニア、バルト3国の8か国）
  - 2007年　　第5次EU拡大の完結（ブルガリア、ルーマニアの加盟）。
  - 2013年　　クロアチア加盟。

- 旧ソ連圏諸国10ヵ国が2004年から2007年にかけての第5次EU拡大でEUに加盟。
- 21世紀に入りEU新加盟は東欧、旧ユーゴ圏のみ。

英国とEUの距離感について

第二次大戦後の英国の立場

- 米ソが覇権を競った東西冷戦下で発言力を増すために強いヨーロッパが必要。
- 軍事共同体のNATOに加えて、経済共同体としてのEU。
- 現実的で柔軟な姿勢はチャーチルの時代から一貫。ボリス・ジョンソンは2014年「チャーチル・ファクター」の中でチャーチルの立場を解説。
  - EU懐疑派も親EU派のどちらにとってもチャーチルは自分たちの先達。
  - 「主権の一部を委譲すること」については、NATOの例も米との同盟の例もありEU参加に限ったことではない。
  - 欧州統合は当時のロシアなど対外的な脅威への防波堤として必要。

冷戦下の英国の立場

- 1979年、サッチャー首相就任（主権国家の集まりとしての緩やかな統合を主張）。
- 1988年、ブリュージュ演説（必要以上の統合に反対）。

冷戦終結後の英国の立場

- 1990年のサッチャー退陣後、メージャー首相がマーストリヒト条約に調印（EU加盟合意）。
- 1997年に発足した労働党のブレア首相は、親欧州に方針転換。
- 通貨政策については国家主権（sovereignty）を反映すべく、ユーロ圏に不参加。

英国のEU離脱 (Brexit) について

- EU離脱をめぐる国民投票の背景
  - 2010年にキャメロン首相の保守党が13年ぶりに政権奪取。
  - 保守党は伝統的にEU懐疑派が多数。
  - EUをめぐる対立抗争にけりをつける手段として国民投票を行う方針が浮上。(1975年のEC加盟をめぐる国民投票以来）
  - ブレア首相時代から、親EU路線の労働党。
  - 労働党は残留派多数。コービン党首は保守党との共闘を警戒。(2014年のスコットランド独立国民投票での教訓）

- 金融危機後の緊縮財政下で医療、教育、住宅状況についてひっ迫感。

- 300万人(英国人口の５%）を越えるEUからの移民の増加により職や生活が影響を受けていると感じる人々が離脱支持。
  - 55歳以上の57%、65歳以上の60%
  - 労働者層と低所得者層の64%
  - 新聞各紙の間での論調の乖離 (読者層に受ける論調に偏る傾向）（開高健のエッセイにも登場する名物フィッシュ＆チップスと新聞の関係？）

時代の流れに対応したEBRDの動き

東西冷戦終結後のEU拡大の動きを支援した時代

EBRDの地理的拡大の時代

EBRDの質的拡大の時代

欧州複合危機の時代と今後の動向

冷戦終結後のEU拡大を支援した時代
（1991年のEBRD発足から2000年代半ばまで）

- EUはEBRD設立以来の最大株主

- 冷戦終結後のEU拡大の動き(2000年代半ばの第5次EU拡大で鈍化）

  - 1998年 チェコ、エストニア、ハンガリー、ポーランド、スロベニアの交渉開始。
  - 2000年 ブルガリア、ラトビア、リトアニア、ルーマニア、スロバキアの交渉開始。
  - 2004年 チェコ、スロバキア、ハンガリー、ポーランド、スロベニア、バルト3国の8か国がEU加盟。
  - 2007年 ブルガリア、ルーマニアが加盟。
  - 同年 チェコはEBRDの活動対象国から卒業。
  - 2013年 クロアチアがEU加盟。

- アイスランド、トルコ、セルビア、FYRマケドニア、モンテネグロは加盟候補国のまま

EBRDの地理的拡大の時代

(2000年半ばからEU拡大ペースの鈍化と並行して現れた動き)

- 2006年　モンゴル
- 2008年　トルコ
  - 2011年1月、チュニジア、ジャスミン革命
  - 2011年２月、エジプト、ムバラク政権崩壊
  - 2011年5月、 G8首脳会議(ドーヴィル)は「アラブ蜂起に関する決議」で、EBRDの適切な地域的拡大を要請)−
- 2012年　エジプト
- 2013年　ヨルダン、モロッコ、チュニジア
- 2014年　キプロス
  - リビアが加盟国として参加
- 2015年　ギリシャ （2020年までの限定付き）
- 2017年　ウェストバンクとガザ (オペレーションはヨルダン事務所から)

EBRDの質的拡大の時代
（世界金融危機以後）

- 2008 年9月にリーマン・ショックに続き、世界金融危機が発生。
  - 2009 年1月　EBRDの世界金融危機対応パッケージ発表（20プロジェクト、EUR 800 million）。
  - 2009年10月 EBRD、EIB、世銀が協調し危機対応。Joint IFIsアクション・プラン（総額 EUR33 billion）。
  - 西側の銀行と旧ソ連圏の中央銀行・地場銀行に強いネットワークの活用。
  - EBRDが卒業し始めていた中欧を含む地域で、手じまいを始めた西側の銀行に代わり地場銀行、企業への支援を強化。
    （例：　2008年のキルギス共和国では融資額が6倍（USD100 mil)増加）

- 「アラブの春」、「ギリシャ危機」などポスト・クライシス地域での活動が活発化。

欧州複合危機の時代と今後の動向
（EBRDは何処へ向かうのか？）

- ユーロ危機、移民・難民危機、同時多発テロを経た欧州の行方？
  - EBRD筆頭株主であるEUと加盟各国の動きはEBRDにどう影響する？
  - EBRD主要メンバーとしての英国の動向、Brexit交渉の行方？

- 中国のプレゼンス
  - 2015年　中国のEBRD加盟（AIIBとの協調）
  - 2016年5月　EBRDとAIIBの協力についてMOU締結
    （a framework for strategic and operational cooperation)
  - 2016年6月　第１号協調融資案件調印。タジキスタンの道路プロジェクト
    (首都ドシャンベからウズベク国境への道路建設）